

地域とお客様と共に成長

東北電力(株)執行役員山形支店長

べん の ゆたか
辨野 裕氏



本年4月、執行役員土木建築部長から着任しました。山形の勤務は初めてですが、蔵王や出羽三山をはじめとした豊かな自然、さくらんぼに代表される美味しい果物や日本一の芋煮会フェスティバルなど、様々な魅力

にあふれる街という印象を持っています。私は愛知県で生まれ、小学校卒業まで同県東海市で過ごしました。その後、東京に移り、早稲田大学理工学部土木工学科を卒業、1990年に東北電力に入社しました。入社後は水力計画に関わる業務や火力発電所のリプレース計画、原子力発電所の耐震設計業務等土木技術に関する仕事を中心に、企画関係の職場も経験しました。

東日本大震災が発生した翌年以降は被災設備の復旧や原子力発電所の安全対策に従事しました。2022年に運転を開始した上越火力発電所1号機の建設では、土木設備の設計だけでなく、地域の皆さまに対する説明も積極的に行いました。発電所が無事に運転を開始した時には、子供のように嬉しい気持ちになったことを記憶しています。

また、原子力発電所の安全対策業務では、女川原子力発電所の防潮堤において設計上限界の高さで建設しましたが、地盤の沈下対策を充実

させるため一度作った基礎部分を掘り返して追加工事を行うなど大変苦労しました。こうした経験を通して関係者が一丸となって課題解決に取り組み、地域の皆さまのご理解を得る努力を怠らないなど、志を持ちながら真摯に対応することの大切さを学びました。

私たち東北電力は、創立当初から「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という考え方のもと、地域社会の持続的な発展と共に成長すべく、電気事業を通じて様々な社会課題の解決に取り組んでまいりました。その積み重ねが地域の皆さまとの信頼関係に繋がり、今日のグループ経営の礎となっています。当社グループでは、2050年カーボンニュートラルの達成に向け「再生可能エネルギーと原子力発電の最大限活用」「火力電源の脱炭素化」「電化とスマート社会実現」の三つを柱としてCO₂排出削減に取り組んでいます。県内の再生可能エネルギー開発では、既に運転を開始している風力発電所や水力発電所に続き、遊佐町で建設中の鳥海南バイオマス発電所が本年10月の運転開始を予定しており、更なる導入拡大に取り組んでまいります。また、女川原子力発電所2号機については、着実に安全対策工事を進めており、本年9月頃の再稼働を目指して、安全確保を最優先に工事を進めるとともに、丁寧な情報発信に努めてまいります。

電気事業を取り巻く環境は激変しており、地域の皆さまの声も多様化しています。「東北電力グループだからこそできること」でお応えしていくことが、これからの私たちに一層強く求められていくものと考えています。山形支店の着任初日、私はこれまでの経験を踏まえ、全社員に「志を持つこと」、「心遣いを大切にすること」、「真摯な対応をすること」の3点をベースに山形支店一丸となって業務を進めていきたいと伝えました。

本年4月、当社グループの中長期ビジョン実現に向けた今後の経営展開を示した「よりそう next+PLUS」を公表しました。電気・エネルギーを中心とした事業展開により、電気の競争力強化と財務基盤の早期回復を図りつつ、「東北発の新たな時代のスマート社会」の実現に向け、地域とお客さまによりそう企業として、これまで以上に山形の成長・発展にしっかりと貢献してまいります。